

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成26年2月13日
【四半期会計期間】	第62期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第3四半期連結 累計期間	第62期 第3四半期連結 累計期間	第61期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	15,497,460	17,126,330	20,654,615
経常利益(千円)	1,590,196	1,876,350	1,889,375
四半期(当期)純利益(千円)	915,860	1,023,694	1,042,627
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	912,759	1,021,979	1,057,951
純資産額(千円)	6,944,766	7,800,733	7,089,958
総資産額(千円)	13,868,756	14,573,427	13,754,894
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	88.29	98.68	100.51
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	50.1	53.5	51.5

回次	第61期 第3四半期連結 会計期間	第62期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	40.32	51.19

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して  
 おりません。  
 2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載して  
 おりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における事業環境は、新政権の景気回復に向けた経済政策への期待感を背景に高額商品の消費が上向くなど消費マインドに改善の兆しが見られた反面、雇用情勢や所得環境の改善の遅れに加え、消費税増税など先行きに対する懸念から節約志向がまだ強く、楽観視できない状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、経営理念「喜びを創り喜びを提供する」の具現化を目指し、『ニューコンセプトメーカー』のスローガンのもと、重点施策として新ブランド・新商品・新店舗創り、新ビジネス、海外展開を推進し、「新領域創造」と「高い価値の創造」にチャレンジしてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、首都圏での展開強化、遷宮・奉祝イベント効果で観光客が増加傾向にある東海地区及び山陰地区が好調に推移したことなどにより17,126百万円（前年同期比10.5%増）となりました。利益面では、販売費及び一般管理費が人件費、販売促進費の増加などにより7,252百万円（前年同期比12.2%増）となった一方、増収効果に加え売上総利益率が前年同期の51.9%から53.2%と1.3ポイント増加したことにより、営業利益は1,861百万円（前年同期比18.0%増）、経常利益は1,876百万円（前年同期比18.0%増）、四半期純利益は1,023百万円（前年同期比11.8%増）となりました。

なお、海外展開につきましては、平成24年11月に設立した非連結子会社の台湾北壽心股份有限公司が平成25年7月、台湾台北市に海外初出店となるカフェ店舗「KONAYUKI」を立ち上げました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

従来、「その他」に含めておりました「ジャパルシー」については、量的な重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より報告セグメントとして記載する方法に変更しており、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

また、前年同四半期の算定方法につきましても当四半期の区分に組み替え後の数値に基づいて算定しております。

#### ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、グループ向け売上が増加したことに加え、プロモーションと連動した主力商品の販売強化、新商品の投入などにより道内店舗が堅調に推移したほか、ギフト対策の強化、楽天市場などネット通販対策の強化により通信販売が伸びました。また、新規出店では、平成25年7月、東京・表参道にアントルメグラッセの専門店「グラッセル」を出店いたしました。

その結果、売上高は、5,769百万円（前年同期比8.3%増）となり、営業利益は620百万円（前年同期比0.5%減）となりました。

#### 寿製菓

寿製菓は、出雲大社の「平成の大遷宮」行事により観光客が増加傾向にある山陰地区において主力商品「因幡の白うさぎ」の販売強化や20周年を迎えた「お菓子の壽城」のイベント開催など地元対策の強化に注力し、その他では代理店向け売上の伸びた結果、売上高は6,345百万円（前年同期比10.8%増）となり、利益面におきましても製造稼働率の向上などによる売上総利益率の改善が寄与し営業利益は806百万円（前年同期比36.9%増）となりました。

#### 販売子会社

販売子会社は、駅・空港・高速道路などの交通機関チャンネルを中心に、販売強化に努めました。地区別では、九州地区が低迷した一方、東海地区は、発売3年目を迎えた「小倉トーストラングドシャ」の拡販と伊勢神宮の遷宮効果による観光客増加などにより堅調に推移しました。また、関西地区では駅・空港が低迷した一方、新商品の投入、催事展開の強化などにより概ね前年同水準となりました。その結果、売上高は3,538百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益は223百万円（前年同期比22.2%増）となりました。

#### 九十九島グループ

九十九島グループは、大手テーマパーク向け売上が低迷した一方、主力商品の販売強化、福岡・大名に平成25年6月にオープンしたフレンチトースの専門店「アイポリッシュ」の展開強化に努めました。また、平成25年11月に長崎県佐世保市にオープンした商業施設「させば五番街」に「赤い風船」ブランドでの出店を行いました。その結果、売上高は2,322百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益は149百万円（前年同期比14.5%減）となりました。

#### 但馬寿

但馬寿は、主力商品の「遊月亭の黒豆茶」の通信販売が伸び悩んだ一方、「伊勢奉祝えび煎餅」などグループ向け売上が堅調に推移した結果、売上高は914百万円（前年同期比11.2%増）、営業利益は93百万円（前年同期比28.4%増）となりました。

#### シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しておりますシュクレイは、前期の出店効果、催事展開、接客サービスの向上及び販促強化などにより既存店舗が好調に推移した結果、売上高は1,746百万円（前年同期比45.8%増）となり、営業利益は64百万円（前年同期比39.7%増）となりました。

#### ジャパルシー

美と健康をテーマに事業を展開するジャパルシーは、昨年10月より試験的に事業を開始し、本年5月に事業を本格稼働いたしました。「栃の実」・「藍」などの天然由来素材の有効性を活かした健康食品を主力にシャンプー、ボディシャンプーなどのパーソナルケア製品や化粧品ブランド「アイサクラ」を商品群に加え、事業モデルの確立と会員顧客獲得に向けて説明会の開催やキャンペーンの実施などに注力いたしました。その結果、売上高は138百万円（前年同期は22百万円）となり、営業損失は105百万円（前年同期は営業損失130百万円）となりました。

#### その他

その他は、損害保険代理業、通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。売上高は29百万円（前年同期は6百万円）となり、利益面では通販基幹業務システムサービスの人件費の増加などにより営業損失は42百万円（前年同期は営業損失5百万円）となりました。

### (2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、14,573百万円となり、前連結会計年度末と比べ818百万円増加しました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加（668百万円）、商品及び製品の増加（197百万円）、現金及び預金の減少（373百万円）などの要因によるものです。

負債は、6,772百万円となり、前連結会計年度末と比べ107百万円増加しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加（282百万円）、長期借入金の増加（111百万円）、1年内返済予定の長期借入金の減少（245百万円）、賞与引当金の減少（150百万円）などの要因によるものです。

純資産は、7,800百万円となり、前連結会計年度末と比べ710百万円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益の計上による増加（1,023百万円）、配当金の支払いによる減少（311百万円）などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.0ポイント増加し、53.5%となり、1株当たりの純資産は751円99銭となりました。

### (3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、30,650千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### (5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,400,000
計	30,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,373,840	10,373,840	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	10,373,840	10,373,840	-	-

(注) 当社株式は、平成25年4月3日をもって、東京証券取引所市場第二部に株式を上場いたしました。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	10,373,840	-	1,217,800	-	550,269

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから直前の基準日(平成25年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 300	-	-
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 10,372,800	103,728	-
単元未満株式	普通株式 740	-	-
発行済株式総数	10,373,840	-	-
総株主の議決権	-	103,728	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数60個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	300	-	300	0.00
計	-	300	-	300	0.00



## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,647,934	2,274,752
受取手形及び売掛金	2,145,427	2,813,778
商品及び製品	592,651	789,986
仕掛品	26,452	33,102
原材料及び貯蔵品	329,949	380,798
その他	387,657	436,743
貸倒引当金	10,029	10,912
流動資産合計	6,120,041	6,718,247
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,991,335	3,149,224
機械装置及び運搬具(純額)	561,731	592,332
工具、器具及び備品(純額)	222,689	233,883
土地	2,500,667	2,500,667
リース資産(純額)	30,717	15,565
建設仮勘定	62,498	9,867
有形固定資産合計	6,369,637	6,501,538
無形固定資産	131,230	122,007
投資その他の資産		
その他	1,223,062	1,261,229
貸倒引当金	89,076	29,594
投資その他の資産合計	1,133,986	1,231,635
固定資産合計	7,634,853	7,855,180
資産合計	13,754,894	14,573,427
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	758,528	1,041,122
短期借入金	2,000,000	2,100,000
1年内返済予定の長期借入金	618,804	373,028
未払法人税等	439,214	437,675
賞与引当金	361,847	211,647
その他	891,718	886,018
流動負債合計	5,070,111	5,049,490
固定負債		
長期借入金	550,813	662,552
退職給付引当金	784,326	816,756
その他	259,686	243,896
固定負債合計	1,594,825	1,723,204
負債合計	6,664,936	6,772,694

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	4,522,054	5,234,544
自己株式	326	326
株主資本合計	7,062,689	7,775,179
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,269	25,554
その他の包括利益累計額合計	27,269	25,554
純資産合計	7,089,958	7,800,733
負債純資産合計	13,754,894	14,573,427

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	15,497,460	17,126,330
売上原価	7,454,535	8,011,471
売上総利益	8,042,925	9,114,859
販売費及び一般管理費	6,464,462	7,252,960
営業利益	1,578,463	1,861,899
営業外収益		
受取利息	271	264
受取配当金	2,909	2,934
受取地代家賃	13,796	12,086
その他	29,671	31,353
営業外収益合計	46,647	46,637
営業外費用		
支払利息	29,230	22,775
その他	5,684	9,411
営業外費用合計	34,914	32,186
経常利益	1,590,196	1,876,350
特別損失		
固定資産売却損	1,815	76
固定資産除却損	3,515	25,064
特別損失合計	5,330	25,140
税金等調整前四半期純利益	1,584,866	1,851,210
法人税等	669,006	827,516
少数株主損益調整前四半期純利益	915,860	1,023,694
四半期純利益	915,860	1,023,694

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	915,860	1,023,694
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,101	1,715
その他の包括利益合計	3,101	1,715
四半期包括利益	912,759	1,021,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	912,759	1,021,979

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	418,461千円	446,759千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	207,470	20.00	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	311,204	30.00	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	ジャパル シー
売上高							
外部顧客への売上高	4,903,488	3,715,467	3,278,930	2,126,036	246,797	1,197,895	22,028
セグメント間の内部 売上高又は振替高	423,536	2,010,837	3,158	222,341	575,660	-	-
計	5,327,024	5,726,304	3,282,088	2,348,377	822,457	1,197,895	22,028
セグメント利益 (は損失)	623,819	589,237	183,008	175,053	72,549	46,329	130,880

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	15,490,641	6,819	15,497,460	-	15,497,460
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,235,532	-	3,235,532	3,235,532	-
計	18,726,173	6,819	18,732,992	3,235,532	15,497,460
セグメント利益 (は損失)	1,559,115	5,372	1,553,743	24,720	1,578,463

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額24,720千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額423,692千円、セグメント間取引消去額13,019千円、たな卸資産の調整額 35,145千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 376,846千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シユクレイ	ジャパル シー
売上高							
外部顧客への売上高	5,082,889	4,250,609	3,538,601	2,107,311	232,743	1,746,738	138,902
セグメント間の内部 売上高又は振替高	686,124	2,095,248	-	215,424	681,770	-	-
計	5,769,013	6,345,857	3,538,601	2,322,735	914,513	1,746,738	138,902
セグメント利益 (は損失)	620,827	806,788	223,653	149,635	93,126	64,738	105,289

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	17,097,793	28,537	17,126,330	-	17,126,330
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,678,566	1,053	3,679,619	3,679,619	-
計	20,776,359	29,590	20,805,949	3,679,619	17,126,330
セグメント利益 (は損失)	1,853,478	42,121	1,811,357	50,542	1,861,899

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業、通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額50,542千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額474,533千円、セグメント間取引消去額11,593千円、たな卸資産の調整額40,412千円、各報告セグメントに配分していない全社費用395,172千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より「その他」に含めておりました「ジャパルシー」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しており、前第3四半期連結累計期間の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	88円29銭	98円68銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	915,860	1,023,694
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	915,860	1,023,694
普通株式の期中平均株式数(株)	10,373,481	10,373,476

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月6日

寿スピリッツ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 憲次 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。